

横須賀・三浦構想区域における過剰な病床機能への転換について

1 医療法及び国通知（H30. 2. 7 地域医療構想の進め方について）における考え方

- 都道府県は、公的医療機関等2025プラン、病床機能報告の結果等から、過剰な病床機能に転換しようとする医療機関の計画を把握した場合には、速やかに、当該医療機関に対し、地域医療構想調整会議への出席と、病床機能を転換する理由についての説明を求めること。
- 病床機能報告において、6年後の病床機能を、構想区域で過剰な病床機能に転換する旨の報告をした医療機関に対して、速やかに、
 - ① 都道府県への理由書提出を求める。
 - ② 理由書の理由等が十分でない場合は、地域医療構想調整会議での協議への参加を求める
 - ③ 調整会議での協議が整わない場合は、都道府県医療審議会での理由等の説明を求める

2 横須賀・三浦構想区域の病床の状況（平成29年度病床機能報告結果）

構想区域	病床機能区分	2017(H29)病床機能報告結果 (A)	2025年の必要病床数 (B)	必要病床数との比較 (過剰・不足) (A-B)	過剰な病床機能
横須賀 ・三浦	高度急性期	1,471	780	691	→ 過剰
	急性期	1,971	2,210	△ 239	
	高度＋急性期			452	→ 過剰
	回復期	443	1,913	△ 1,470	
	慢性期	1,181	1,227	△ 46	
	休棟中等	435	-		
	合計	5,501	6,130		

3 過剰な病床機能への転換を検討している医療機関（2025 対応方針より）

医療機関名		高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	理由・転換時期（予定）
医療法人社 団聖ルカ会 パシフィック ホスピタル	2018現状				259床	41床	300床	・療養病床主体であることに変わりはないが、急性期病床を何とか稼働させ、老人保健施設・特別養護老人ホーム並びに各種高齢者住宅等から、本来高度急性期病院を受診する必要が無い患者様の初期対応を行い、在宅復帰を促し、訪問診療・訪問看護・デイケア・訪問リハビリなど在宅部門と連携を取りながら、入院施設を有する訪問診療として包括的に地域高齢者をケアしていく。
	2025計画		41床		259床		300床	・西棟（休棟41床を含む）においては、今後改築を検討することもあり得るため、地域の情勢を勘案し、一般病床から療養病床への転換もあり得る。
	差	-	+41床	-	-	△41床	-	
医療法人大 樹会 ふれ あい鎌倉ホ スピタル	2018現状	0床	40床	20床	52床	0床	112床	・鎌倉旧市街地地域における基幹病院（総合病院）として24時間365日救急受入。
	2025計画	0床	58床	50床	48床	0床	156床	・急性期から回復期-慢性期と幅広いステージでニーズに応じた医療サービスを提供する ・建物老朽化のため、現在建て替え工事を計画進行中。
	差	-	+18床	+30床	△4床	-	+44床	・H28配分済（44床（うち29床回復期））、H30許可済（H31年10月開設予定）
一般財団法人 鎌倉病院	2018現状	0床	34床	33床	0床	18床	85床	・整形外科を中心とした一般急性期と、地域包括ケア病床を中心とした地域医療需要に合わせてケアミックス病院として機能を維持、更に強化することを目指す。在宅医療、介護事業所との連携、いずれは自院での展開を計画しており、地域におけるかかりつけ医療機関の役割を継続して行く。
	2025計画	0床	46床	61床	0床	0床	107床	・3年後を目標に、現在地での病院建て替え計画をしている。建て替え後は、現在の許可病床85床から107床へ、一般病床12床、地域包括28床増床し、手術室も現状1室のところを2室へ増やし、現状受け入れが難しくなっているケースや、入院時期が先延ばしになっているケースなども受け入れ可能にする体制を強化して行く。
	差	-	+12床	+28床	-	△18床	+22床	・H28配分済（22床（うち22床回復期））、H29許可済（平成33年8月開設予定）
医療法人沖 縄 徳洲会 湘南鎌倉総 合病院	2018現状	619床					619床	・二次医療圏が縦に長く分断されているイメージがあるため、患者の流動を考慮し、ポストアキュートやサブアキュート等へのスムーズな連携を他院と図り、地域で完結するように努める。また、外傷センター、先端医療（先進医療）センター、包括的がんセンターを設立し、広域急性期病院を目指す。
	2025計画	648床					648床	・現在、ICUからの転棟先が一般病床となっていることから、患者の安全性の向上と密度の高い医療の提供を目的に、2018年度中に特定入院病床であるHCU（16床）の整備を行う計画である。そして、占床率が90%近くとなっているICUにおいても、手術後の患者安全をさらに高めるため、2019年度に現状の8床から12床（4床増）に拡張する計画である。
	差	+29床	-	-	-	-	+29床	・また、身体的疾患を伴う精神疾患（認知症を含む）患者が近年急増しており、これに対しては、精神科の入院を可能とする専用病床（10床）を2019年度に整備する予定である。 （HCU病床：16床 精神科病床：10床 ICU病床：8床⇒12床 救命救急病床：20床 NICU病床：6床） ・H27配分済（29床：救命センター・外傷センター増築）

医療機関名		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	理由・転換時期（予定）	
医療法人社団 則天会 逗子病院	2018現状				36床		36床	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療は医療にとどまらず、生活環境の福利を増進する役割を担っていると感じている。 ・2022年頃に40床程度の介護医療院を新設する計画と既存の病院(36床)も建て替える計画がある。 	
	2025計画		40床				40床		
	差	-	+40床	-	△36床	-	+4床		
医療法人社団 柏信会 青木病院	2018現状				97床		97床	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期における長期療養に強みのある病院。今後は、訪問看護をはじめとする医療専門職(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・薬剤師)等の連携により地域医療を充実させ、在宅医療にシームレスに対応できるような機能をもち、地域の方々の健康な生活を支えていく。 ・医療依存度の上昇に伴い、神経難病等を中心として「障害者病床」へ機能を分化する。 ・1～2年後くらいから、段階的に、病棟内整備及び機能変更を計画している。 	
	2025計画		23床		74床		97床		
	差	-	+23床	-	△23床	-	-		
横須賀市立 市民病院	2018現状	84床	256床	90床	0床	46床	476床	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年10月には地域包括ケア病棟(稼働病床34床)を設置し、在宅医療の支援に取り組んでいるほか、訪問看護認定看護師1名を配置して地域との円滑な連携を推進している。また、平成30年度中には、平成29年度病床機能報告で報告した2023年の病床機能に近づけるため、回復期リハビリテーション病棟(稼働病床34床)を開設する。 ・高度急性期から在宅支援まで広く対応しているが、将来的に地域包括ケアシステムをより効率的・効果的に構築していくためのあり方については、市立病院の将来構想を策定していく中で検討していくものとする。 	
	2025計画	具体的な将来像は、現在策定を進めている市立病院の将来構想の中で検討していく。							
	H29年度病床機能報告での2023予定	84床	297床	95床	0床	0床	476床		
	差	-	+41床	+5床	-	△46床	-		

4 今後の進め方について

平成30年10月	第3回三浦半島地区保健医療福祉推進会議（地域医療構想調整会議） ・「2025年に向けた対応方針」等に基づく該当医療機関について県から報告、意見聴取
平成30年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、転換計画の詳細について県から医療機関に確認、調整等 ・医療機関等が参加する意見交換の場（ワーキンググループ）において、意見交換
平成31年2月	第4回三浦半島地区保健医療福祉推進会議（地域医療構想調整会議） ・（必要に応じて）当該医療機関の出席、説明 ・調整会議としての意見を確認